

学 位 論 文 審 査 要 旨 公開審査日 2015 年 1 月 28 日 (水)

報告番号：乙 第 2083 号	氏名：和田 憲和	
論文審査 担当者	主査 教授 長尾 俊孝 印	副査 教授 河島 尚志 印
		副査 教授 福武 勝幸 印
<p>審査論文の題目： Relationship between dietary protein intake and the changes in creatinine clearance and glomerular cross-sectional area in patients with IgA nephropathy (IgA 腎症における食事たんぱく質摂取とクレアチニンクリアランスの変化、糸球体断面積との関係)</p> <p>著 者： Toshikazu Wada, Toshiyuki Nakao, Hiroshi Matsumoto, Tomonari Okada, Yume Nagaoka, Hideaki Iwasawa, Asako Gondo, Ami Niwata, Yoshihiko Kanno</p> <p>掲載誌： Clinical and Experimental Nephrology, in press.</p>		
<p>論文要旨：</p> <p>【背景と目的】 食事たんぱく質摂取 (PI) 量を減らすことは、腎機能を維持するのに有効であるとされている。しかしながら、慢性腎臓病における食事 PI 量と腎組織像との関係については不明な点が多い。本研究では、成人の IgA 腎症において、食事 PI 量の変化とクレアチニンクリアランス (Ccr) の変化や形態計測的に観察した糸球体との関係を検討した。</p> <p>【対象と方法】 腎生検で IgA 腎症と診断された 24 名の成人患者を対象として、臨床的変数と腎糸球体形態計測値を調べた。臨床的変数としては、外来時と腎生検入院時の PI 量と Ccr を測定した。さらに、普段の食生活を反映している外来時とコントロールされた食事が提供された腎生検入院時の測定値の差を各々、dPI、dCcr として算出した。腎糸球体形態計測値は、画像解析ソフトウェアを用いて、腎生検組織における糸球体係蹄面積 (GTA) として求めた。これら dCcr および GTA と dPI との関連性を評価した。</p> <p>【結果】 dCcr と GTA は共に、dPI と正の相関関係を示した (dCcr: $r = 0.726, P < 0.001$, GTA: $r = 0.556, P = 0.013$)。重回帰分析では、dPI が独立して dCcr と GTA の両方と関連していることが明らかとなった。また、GTA と外来時 PI 量 ($r = 0.457, P = 0.043$) との間には正の相関関係があった。</p> <p>【考察・結語】 食事 PI 量の変化は、糸球体濾過量の変化と関連していると考えられた。さらに、IgA 腎症患者の初期診断時生検時において、食事 PI 量は、組織形態計測の所見により、糸球体の大きさに影響を与えている可能性が示唆された。</p> <p>審査過程：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本研究の臨床的な目的や意義についての質問に対して、的確に回答された。 2. IgA 腎症患者における糸球体の病理学的変化が結果に与える影響について、適切な説明がなされた。 3. 糸球体係蹄面積の計測方法に関する質問に適切な回答がなされた。 4. Ccr 以外の生化学的因子と食事たんぱく質摂取量との関連についての質問に適切に回答された。 5. 食事たんぱく質摂取量と糸球体濾過量との関連機序について、的確な見解が述べられた。 6. 糖尿病性腎症等の他の糸球体疾患における検討についての質問に適切な回答が得られた。 <p>価値判定：</p> <p>本研究では、IgA 腎症において食事たんぱく質摂取量が糸球体濾過量や糸球体サイズに関連していることを示した。この結果は、IgA 腎症の治療や病態の把握に有益な知見として臨床的に寄与するところ大であり、学位論文としての価値を認める。</p>		